労災疾病等医学研究普及サイトの御案内

「アスベスト」について

　近年、アスベスト（石綿）関連疾患の労災請求件数は年間1,000～1,300件前後となっていますが、その中には他の疾患との鑑別が困難なものや診断方法が特殊なものがあり、申請から処分決定までに時間を要する場合も少なくありません。こうした診断方法が難しいアスベスト関連疾患について、明確かつ簡易な診断方法・指標を確立し、より適切な治療・予防に役立てることを目的として、当機構では長年アスベスト関連疾患の診断等についての研究を行っています。

　平成29年度までの研究では、診断時には既に進行していることが多く、他のアスベスト関連疾患との鑑別も困難な胸膜中皮腫について、新たな診断基準の確立を目指しました。胸膜中皮腫症例を全国から集め胸水に関するデータを抽出した結果、胸水中のヒアルロン酸の値などが、胸膜中皮腫の診断材料として実用性が高いことを明らかにしました。

　平成29年度までのアスベスト研究については、下記の「労災疾病等医学研究普及サイト」からご覧いただけます。

　<https://www.research.johas.go.jp/asbesto2015/>

　平成30年度からは、明確な労災認定基準がない良性石綿胸水について、新たな認定基準を確立することを目的とした研究を開始しました。新しい診断マーカーとして胸水中の物質（SLPI）に着目し、初期の胸膜中皮腫等と比較し良性石綿胸水はSLPIが有意に低いという結果が得られ、これにより将来迅速な治療及び労災請求の処理期間短縮につながることが期待されます。この成果は『Journal of Occupational Health, 2021年 1月号（Volume 62,Issue 1）』に掲載されました。

　平成30年度からのアスベスト研究の詳細については、下記の「労災疾病等医学研究普及サイト」をご覧ください。

　<https://www.research.johas.go.jp/asbesto2018/>